

実践をデータサイエンス教育の中心に位置づける
—Placing 'Practice' at the Center of Data Science Education—

Masanao Yajima, Boston University
[Eric Kolaczyk](#), Boston University
Haviland Wright, Boston University
111 Cummington Mall, Boston, MA
+16173532013, yajima@bu.edu

本発表はハーバードデータサイエンスレビューにて公開予定のディスカッションペーパーを元にしています。著作権の都合上、詳細内容は他所にて公開できませんので、この場においては要約の意識のみ記載させていただきます。詳細の内容はウェブサイトをご参照ください。

<https://hdsr.mitpress.mit.edu/pub/twyc748y/release/2>

多くのデータサイエンス教育プログラムにおいて実践とは、卒業の前の最終審査や卒業論文の代わりとして、学習の最後

に位置付けられている場合が多いと思われます。しかし、その発想を逆転し、実践をデータサイエンス教育の中核にとどうなると思いますか？その問いから始め今や全米でも認知される革新的なプログラムへと成長したボストン大学、実践統計修士号（MS in Statistical Practice）の過去6年間の経緯から得た教訓を紹介させていただきます。また今後の課題やこの一修士号がデータサイエンスの共有化を通して学部、大学に与えた影響についても時間の許す限りお話しさせていただきます。